原町市埋蔵文化財調査報告書第22集

原町市内遺跡発掘調査報告書５

平成11年度試掘調査

高見町Ａ遺跡（第６次調査）

泉廃寺跡（第12･13次調査）

下渋佐赤沼遺跡

桜井古墳群上渋佐２・３・13号墳（第２次調査）

2000年３月

福島県原町市教育委員会

原町市埋蔵文化財調査報告書第22集

原町市内遺跡発掘調査報告書５

平成11年度試掘調査

高見町Ａ遺跡（第６次調査）

泉廃寺跡（第12･13次調査）

下渋佐赤沼遺跡

桜井古墳群上渋佐２・３･13号墳（第２次調査）

2000年３月

福島県原町市教育委員会

序

文化財は、わが国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民共有の財産であり、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上・発展の基礎をなすものであります。

とりわけ、地中に埋もれている埋蔵文化財は、文字資料だけでは知ることができなかった先人の生活の様子や文字がまだなかった時代の人々の生活や文化について、私たちに多くの情報を与えてくれます。

近年、原町市内では広範囲にわたり開発の波が押し寄せつつあります。その一方、長い歴史を経て保存されてきた埋蔵文化財が一日にして失われてしまう危険性があります。このような状況のなか、教育委員会では、埋蔵文化財の保護のため、開発が行われる前に、遺跡の範囲や性格などの資料を得る目的で、分布調査や試掘調査を実施しております。

開発に際しては、これらの資料をもとに、関係の方々及び機関と遺跡についての保存協議を行い、保存が困難な場合については、図面や写真などによる記録保存のための発掘調査を実施しております。

本報告書は、平成11年度に、国及び福島県の補助金を得て実施した市内遺跡発掘調査事業の試掘調査の成果報告書です。今後この報告書を、埋蔵文化財の保護、地域史研究のために活用していただければ幸いに存じます。

終わりに、地権者の皆様をはじめ、調査にご協力いただきました方々に心から感謝いたします。

平成12年３月

原町市教育委員会
教育長　鈴　木　清　身

例　　言

1．本報告書は、平成11年度に実施した原町市内遺跡の試掘調査報告書である。

2．調査は、国及び福島県の補助金の交付を得て原町市教育委員会が実施した。

3．本報告書の執筆及び編集は、原町市教育委員会生涯学習部文化課の堀　耕平、鈴木文雄が行った。

4．発掘調査は以下の体制で実施した。

調査主体　原町市教育委員会

調査担当　原町市教育委員会生涯学習部文化課

発掘調査係長　堀　耕平
主　　査　鈴木　文雄
文化財主事　荒　淑人

事務局　原町市教育委員会　教　育　長　鈴木　清身
生涯学習部長　佐藤　一男
次長兼文化課長　阿部　敏夫
主幹兼課長補佐　高倉　一夫
文化振興係長　小田　幸夫
文化振興係主査　山内　茂樹

調査補助員　佐藤　祐太、岩谷こずえ

発掘補助員　山田　英子、草野ヤイ子、諏佐　忠男、佐久間三雄、岩井　幸夫、但野　十九、渡辺　和子
大竹　裕一、鈴木　清身、山邊　瑞秋、佐藤　昭、志賀セツ子、天野クニ子、鈴木　康雄
益山冨士子、佐藤　文江、志賀　愛子、押野己之助、北原　洋、大内スミ子、星　アキヨ
渡部トシ子、北山　睦、佐藤シン子、北山八重子、今野　一子、渡部　トヨ、佐藤　順厚
中田　幸一、佐藤紀美子、高橋キイ子、佐藤　セイ、高野　勝子、紺野　弘子、篠原　一男

整理補助員　山本　恵子、遠藤　和子、古谷　洋子、太田　正子、寺内美智子、遠藤実恵子

5．試掘調査にあたっては、次の機関及び個人から協力を得た。

福島県相双農林事務所、原町市土地改良区、高平ほ場整備施行委員会、高野トヨ子、猪狩　洋一、渡邊四呂枝、新妻　一信、小川　正美、志賀　忠敏、渋佐　登、大橋　隆晴、濱須　義英、濱須　弘仲、草野　光夫、佐藤　政廣、金澤　照央、酒井　則男、鈴木　健司、鈴木　守夫、村田　恒明、上野　弘、菊地　辰夫、佐藤　光夫、横山　元栄、小野田　功、佐藤　忠俊、佐藤美保子

6．試掘調査、報告書作成にあたり、次の機関及び個人から指導、助言を得ている。

磯村幸男・坂井秀弥（文化庁）、玉川一郎（福島県教育庁文化課）、岡田茂弘（東北歴史博物館）、鈴木　啓

7．調査で得られた資料は、原町市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．図作成に際しては以下の記号・略号を使用した。

T：トレンチ、SX：古墳、掘：掘立柱建物跡、溝：溝跡、住：竪穴住居跡、柱：一本柱列、坑：土坑

目　　次

序
例言・凡例
目　　次

第１章　調　査　遺　跡 …… 1

第２章　試掘調査及び調査成果 …… 2
　第１節　高見町Ａ遺跡（第６次調査） …… 2
　第２節　泉廃寺跡（第12･13次調査） …… 6
　第３節　下渋佐赤沼遺跡 …… 11
　第４節　桜井古墳群下渋佐２・３･13号墳（第２次調査） …… 13

写真図版
報告書抄録

第1章　調　査　遺　跡

平成11年度の国・県補助事業に係る調査遺跡は４遺跡である。

遺跡は高見町一丁目地内の高見町Ａ遺跡、泉地区の泉廃寺跡、下渋佐地区の下渋佐赤沼遺跡、上渋佐地区の桜井古墳群上渋佐２・３・13号墳である。

高見町Ａ遺跡は、個人の宅地造成に係る遺跡内容確認の調査である。

泉廃寺跡及び下渋佐赤沼遺跡は、県営ほ場整備事業に係る遺跡内容確認の調査で、このうち泉廃寺跡では町池地区で第12次調査、寺家前（てらけまえ）地区で第13次調査を実施した。

桜井古墳群上渋佐２・３・13号墳は、国史跡桜井古墳の保存整備事業に関連する遺跡内容確認の調査である。

図１　遺跡位置図

第２章　試掘調査及び調査成果

第１節　高見町Ａ遺跡（第６次調査）（遺跡番号20600215）

所 在 地　原町市高見町一丁目
調査期間　平成11年４月21日から７月８日まで
対象面積　342㎡
調査面積　342㎡
事業内容　個人の宅地造成に係る発掘調査
調査担当　堀　耕平(発掘調査係長)、佐藤祐太(調査補助員)
遺跡概要
本遺跡は、原町市北部を東流する新田川右岸の河岸段丘上に位置している。標高は約14mである。本遺跡は旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、江戸時代の複合遺跡である。特に本遺跡一帯は弥生時代中期の浜通り地方北部の標式土器である桜井式土器の標式遺跡にもなっている。

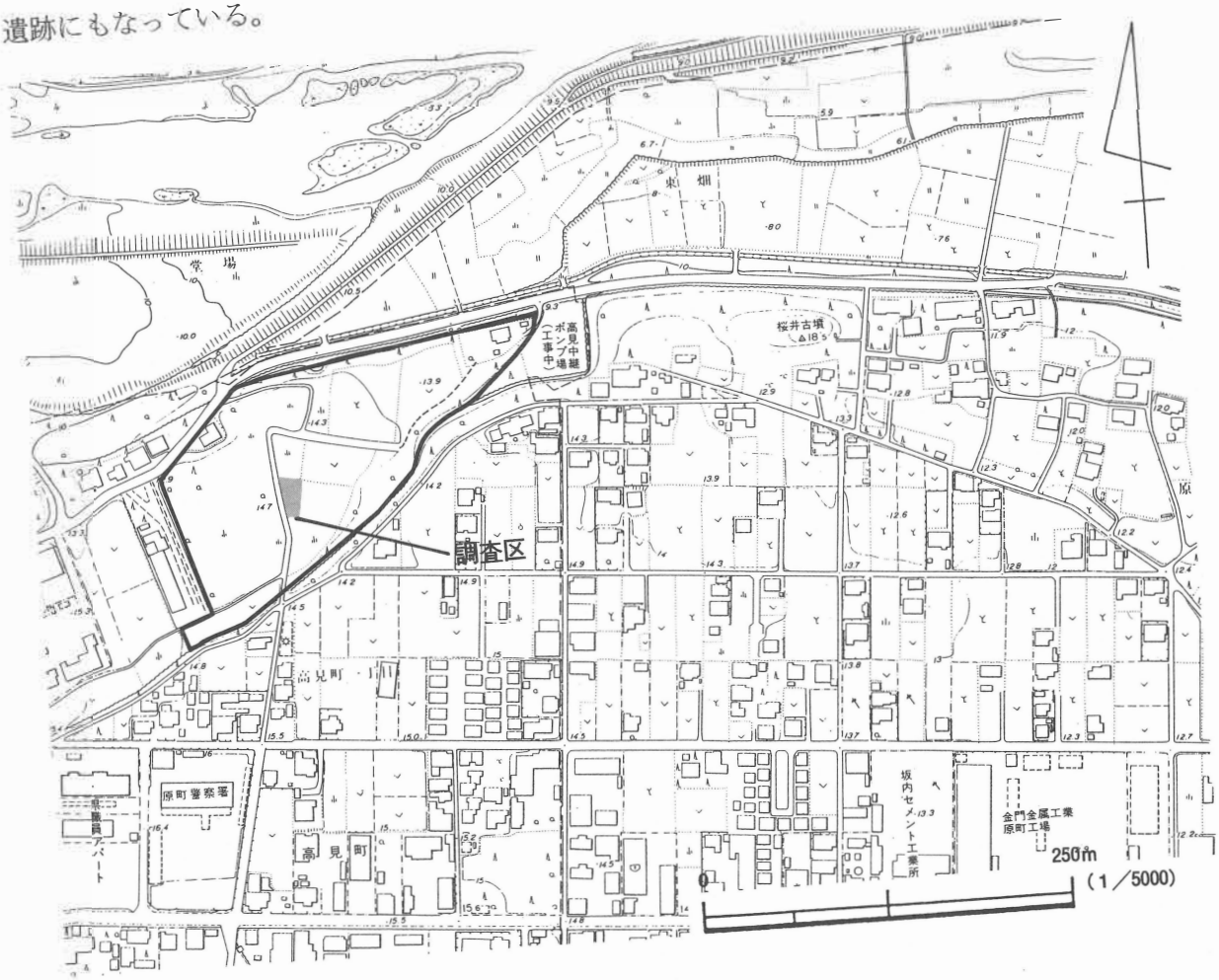


図２　高見町Ａ遺跡位置図

遺跡の東には主軸長74mの前方後方墳である国指定史跡桜井古墳が位置し、高見町支群と上渋佐支群からなる桜井古墳群を形成している。

本遺跡の発掘調査はこれまで５次にわたり実施されている。昭和42年（1967）に原町市教育委員会が高見町１号墳の主体部を調査している。

平成５年（1993）には東北学院大学の辻秀人助教授の担当で発掘調査が行われ、弥生時代後期（十王台式期）の竪穴住居跡２軒、古墳時代前期（塩釜式期）の竪穴住居跡２軒、円墳の周溝１基が検出されている。

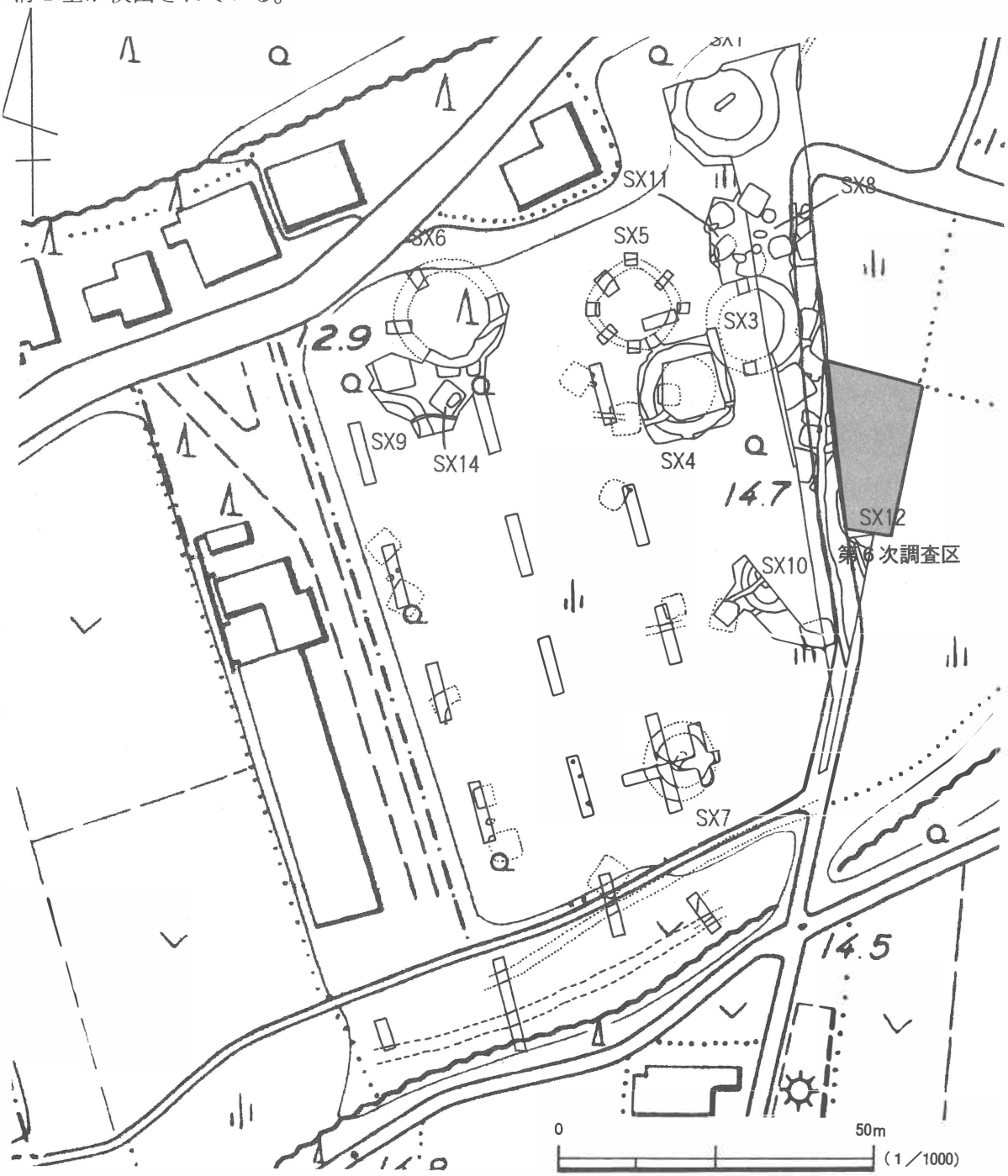


図３　高見町Ａ遺跡遺構分布図（第３・４次調査）

平成７年（1995）には宅地開発に係る試掘調査及び市道建設に係る発掘調査により、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡21軒、円墳８基、刳抜石棺３基、箱式石棺１基が検出されている。また、周溝覆土の火山灰分析により、６世紀中葉に噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Ｈｒ－ＦＰ）が検出されており、古墳の築造時期は６世紀中葉以前と考えられている。

以上前回までの調査で縄文時代晩期の竪穴住居跡１軒、弥生時代及び古墳時代の竪穴住居跡34軒、古墳19基（墳丘外埋葬施設を含む）が確認されており、原町市域では最も重要な遺跡の一つである。

調査概要

本遺跡はこれまでの調査により、遺構・遺物密度が高いと判断されたため、表土から人力での掘下げを行った。遺構検出までの深さは約40㎝であったが、多量の弥生土器・土師器等が出土した。

検出した主な遺構は古墳３基、竪穴住居跡７軒であった。遺構は情報を得るため詳細な調査を行った。遺物の取上げ及び遺構実測図作成は、遺跡全体に公共座標に基づいた５ｍ四方のグリッドを配置して行った。

古墳のうちほぼ全体が調査できた12号墳は周溝の内径が10ｍで、中央やや南から主体部の一部が検出された。主体部は北東－南西方向に作られ、上位部分と東半分は既に失われていた。埋葬方法は、棺の両端にあたる小口や合せ目をふさいだ白色粘土しか検出されなかったことから、粘土で棺全体を覆う粘土槨ではなく、棺を穴の中に直接埋めた木棺直葬であると判断される。

また、主体部の底から少し高いところで、鉄製の轡と弓に使われる両頭金具が出土した。轡はハミ・鏡板・引手が一式揃っている。これらは保存処理のため発泡ウレタンで固定し土ごと取上げ、福島県立博物館に保存処理を依頼した。

12号古墳の築造年代は、出土遺物が少ないため、今後検討を要するが、周辺のこれまでの調査状況から比較すると、５世紀後半から６世紀頃と推定される。

竪穴住居跡のうち２軒からは廃棄された土師器が数個体出土した。土師器は古墳時代前期のものが多く、北陸地方の土師器と類似する形態及び製作技法のものがある。

埋め戻しは重機で行った。

調査成果

遺構　弥生時代及び古墳時代の竪穴住居跡　７軒

　　古墳　３基、土坑２基、溝跡２条

遺物　弥生土器（桜井式）・土師器（古墳時代前期）・石器　10箱

　　鉄製轡　一式、両頭金具　数個

所　　見

桜井古墳群を形成する高見町支群として新たに３基が確認され、古墳の数は25基となり、かつてこの一帯には多数の古墳が所在していたことがあらためて確認できた。また、弥生時代か

ら古墳時代前期の竪穴住居跡も７軒検出され、住居跡の数が39軒に達したことは古墳群に先行して、大規模な集落が形成されていたことを確実なものとした。

以上のことから、本遺跡は古墳群として、また集落跡として重要である。開発に際してはできるだけ地下の遺構に影響が及ばないよう事業者の協力を求めたい。

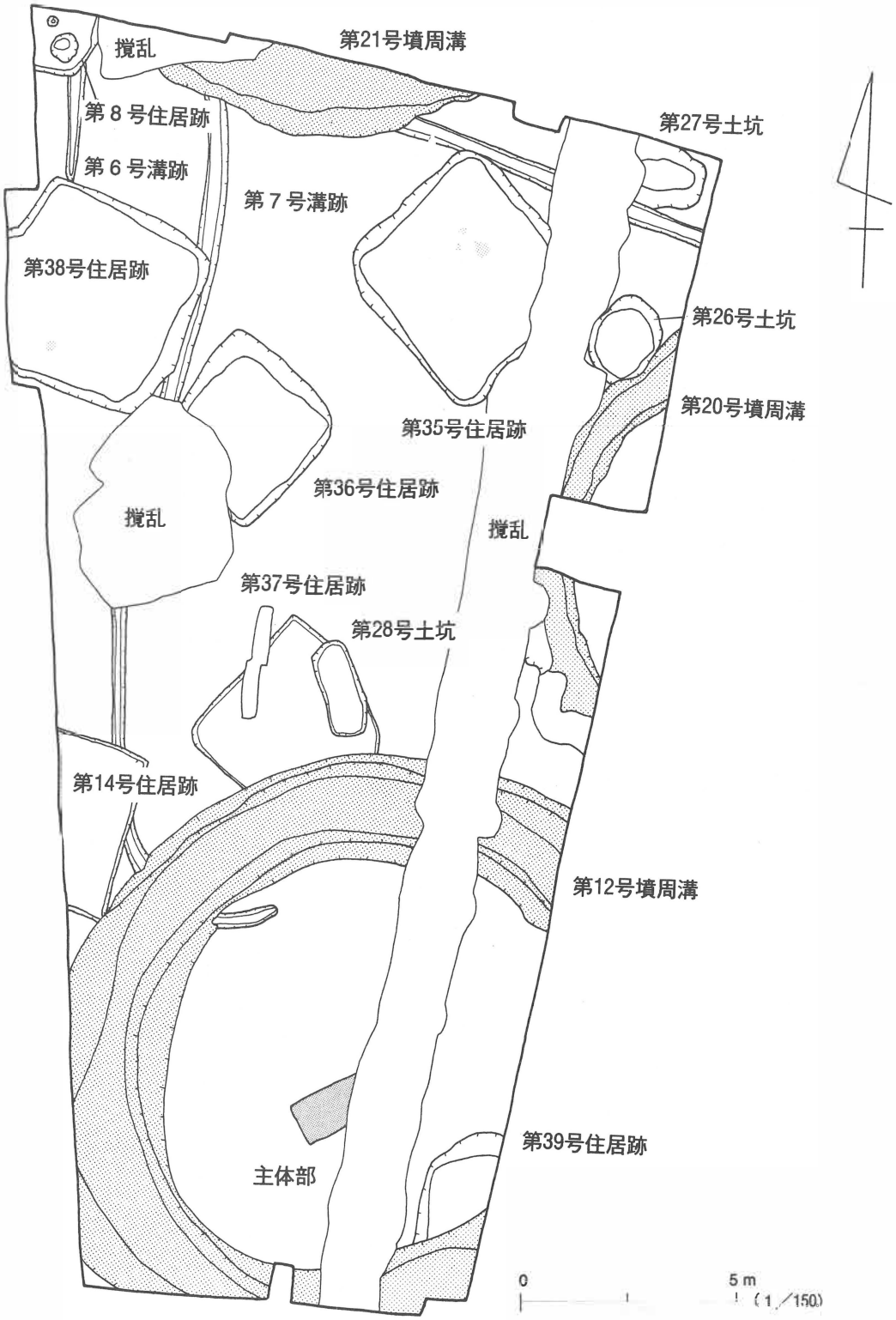


図４　高見町Ａ遺跡第６次調査遺構分布図

第２節　泉廃寺跡（第12･13次調査）（遺跡番号20600097）

所 在 地　原町市泉字町池地内（第12次調査）、寺家前地内（第13次調査）
調査期間　第12次調査　平成11年６月21日から６月24日まで
　　第13次調査　平成11年７月26日から平成12年3月31日まで
対象面積　第12次調査　2,800㎡、第13次調査　8,000㎡
調査面積　第12次調査　256㎡、第13次調査　3,500㎡
事業内容　県営ほ場整備事業に係る保存協議の資料を得るための確認調査
調査担当　堀　耕平(発掘調査係長)、鈴木文雄(主査)、荒　淑人(文化財主事)、
　　佐藤祐太・岩谷こずえ(調査補助員)

遺跡概要

本遺跡は新田川(にいだがわ)左岸の沖積地から河岸段丘面に立地している。建物の礎石や古代瓦が散在し、焼け米が出土することから、奈良・平安時代の寺院跡として、昭和30年に福島県の指定を受けた。その面積は約49,000㎡であった。

その後、泉廃寺跡の所在する高平地区の県営ほ場整備事業に伴い、遺跡範囲及び遺跡内容を把握するため、原町市教育委員会が平成６年度から県史跡の周辺地区の調査を行ってきた。

昨年度は町池地区(第８次調査)で八脚門を伴う建物群が検出され、舘前地区（第10次調査）では多量の瓦が出土した。

これらの調査結果から、泉廃寺跡の面積は約120,000㎡に達し、遺構・遺物の内容から、奈良・平安時代に置かれた陸奥国行方(なめかた)郡の郡衙(ぐんが)跡（郡の役所跡）であると判断された。

調査概要

今年度は県史跡の西隣の町池地区(第12次調査)と東隣の寺家前(てらけまえ)地区（第13次調査）で確認調査を実施した。

第12次調査では、４×８ｍのトレンチを８箇所設定した。少量の土師器が出土したが、遺構は見つからなかった。

第13次調査では、調査区全体に２ｍ幅で長さが任意のトレンチを22箇所設定した。このうち遺構が検出された部分を中心に、重機で表土剥ぎを行い、遺構検出を行った。この結果、板塀跡と推定される一本柱列に区画された内側に、脇殿、正殿、後殿に相当する掘立柱建物跡が確認され、行方郡衙の政庁院跡と判断された。

遺構のうち、以下に主なものについて説明する。

（１）　掘立柱建物跡

１・４～８号掘立柱建物跡は建物の方向が真北方向で、２・３号掘立柱建物跡は真北方向からずれている建物であることから、前者と後者の時期に違いがあることが想定できる。

また、３号掘立柱建物跡の南東角に位置する柱穴（掘方(ほりかた)）を埋めた後から、４号掘立柱建

物跡の柱穴が作られていることから、４号掘立柱建物跡（真北方向）が新しく、３号掘立柱建物跡（真北から西に67°偏している）が古いことがわかった。

１号掘立柱建物跡は梁間２間・桁行４間の南北棟である。西側の軒が、後で説明する１号一本柱列の延長上にあることから、これと同時期の建物の可能性がある。柱穴の大きさは１～1.2mで、柱の太さは20～25cmである。

２・３号掘立柱建物跡は梁間３間・桁行３間の総柱の東西棟で、２棟が東西に並んでいる。柱穴は最大で1.5m四方の大きさがある。柱の太さは約50cmである。

４号掘立柱建物跡は東西２間以上・南北３間以上の建物跡である。西側には縁（庇（ひさし））が付属している。

６号掘立柱建物跡は梁間２間・桁行２間以上の南北棟の建物跡で、一本柱列と平行しており、西脇殿に想定できる。

７号掘立柱建物跡は建物の重複が２ないし３時期あり、調査途中であるが、東西棟で、他よりも規模が大きい建物跡である。正殿に想定できる。

８号掘立柱建物跡は梁間２間・桁行６間の東西棟の建物跡で、７号建物跡の北側に位置しており、後殿に想定できる。

（２）　一本柱列

真北方向に２列並んで見つかっている。これらは平成７年度の第２次調査で検出された一本柱列の続きと考えられる。

平成７年度の調査では、東側の柱列は途中で東に曲がり、柱列に建物が付属して見つかっている。

（３）　溝跡

今回の調査区の北西にある２号溝跡は幅が約3.5m、深さが約60cmである。

真北方向に対しほぼ直角であることから、真北方向の建物群を囲むための区画施設と考えられる。

（４）　整地層

調査区の南東には、こぶし大の石と土器の小片を含んだ土層が確認され、整地層と考えられる。整地層は一本柱列に関連する建物跡の柱穴の上に盛っていて、整地層の上には赤焼き土器や錆びついた鉄滓が見つかっている。

調査成果

遺構　奈良・平安時代の掘立柱建物跡８棟、一本柱列２列、溝跡１条、土坑10基

遺物　土師器、須恵器、赤焼土器、鉄滓　5箱

所　　見

真北方向の掘立柱建物跡群と一本柱列は政庁院跡と想定でき、行方郡衙の構造や変遷を理解する上で重要な調査成果が得られた。また、真北方向の建物跡よりも古い総柱の建物跡が検出

され、寺家前地区では政庁院が配置される以前に倉庫群が置かれたことも判明した。

以上、本地区は行方郡衙跡の最も中核をなす部分であり、将来にわたり保存を要する地区である。

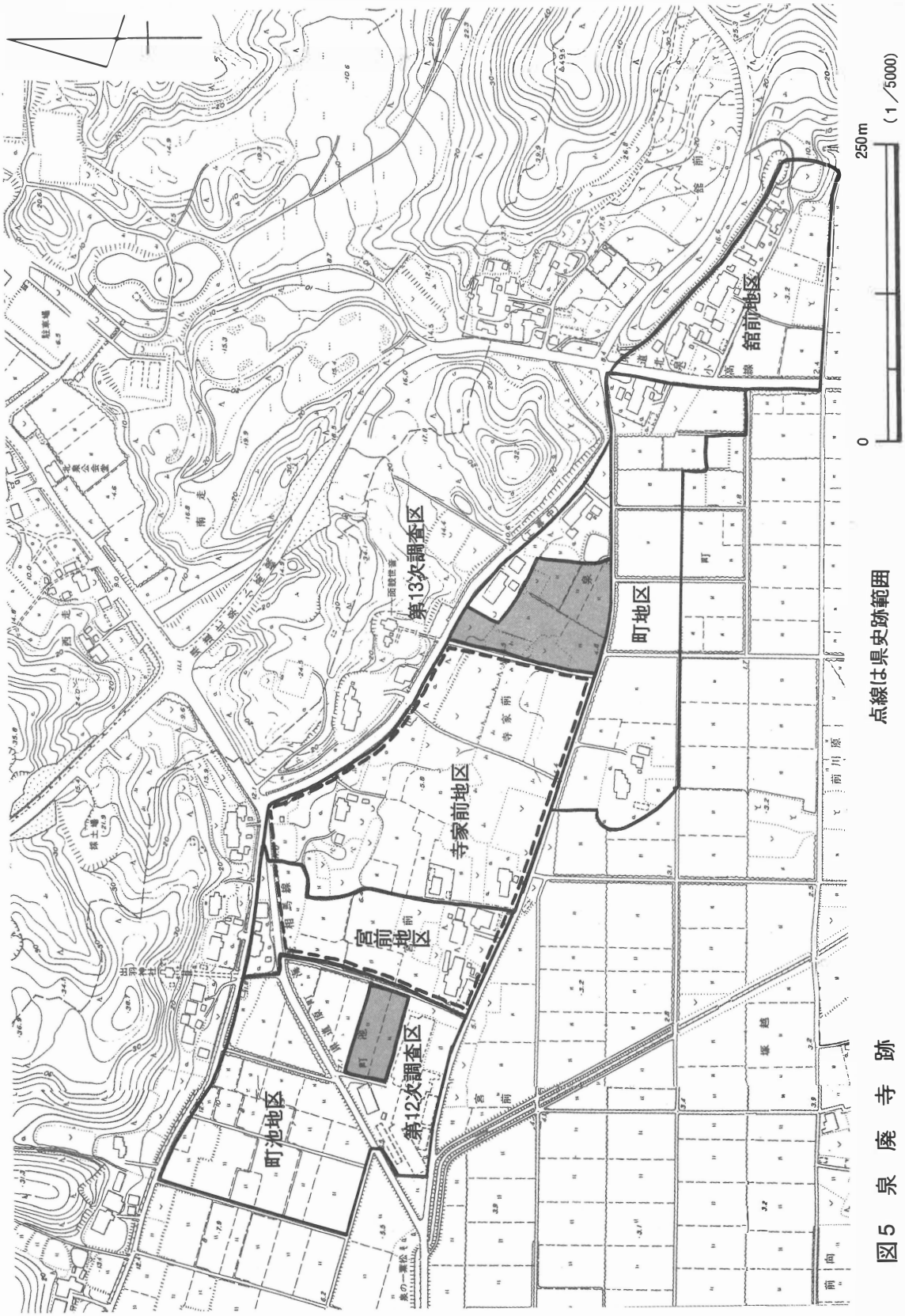


図5　泉　廃　寺　跡

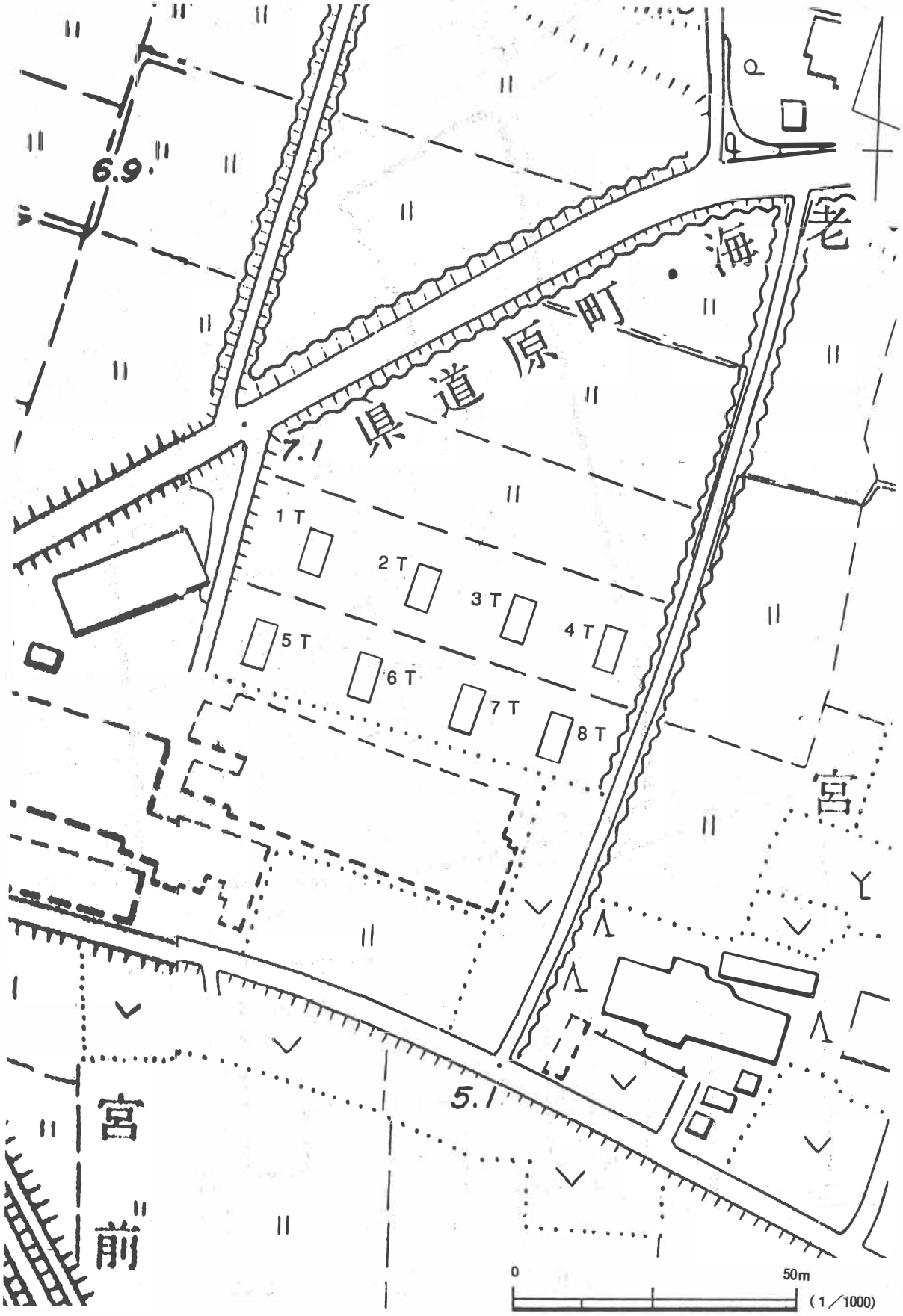


図６　泉廃寺跡第12次調査トレンチ配置図

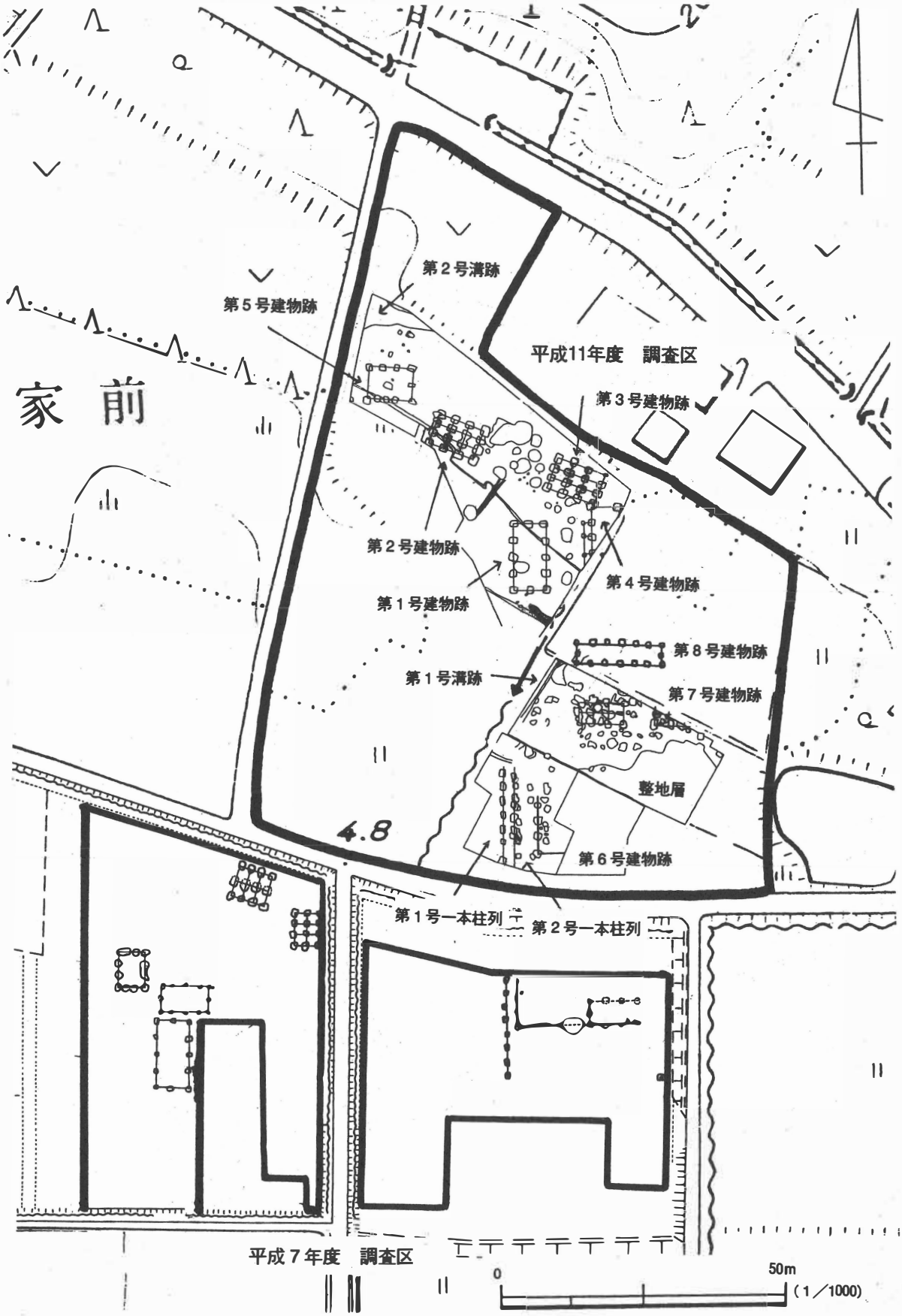


図7 泉廃寺跡第13次調査遺構分布図

第３節　下渋佐赤沼遺跡（遺跡番号20600214）

所 在 地　原町市下渋佐字赤沼地内

調査期間　平成11年７月１日から７月７日まで

対象面積　6,000㎡

調査面積　240㎡

事業内容　県営ほ場整備事業に係る保存協議の資料を得るための試掘調査

調査担当　堀　耕平（発掘調査係長）

遺跡概要

本遺跡は新田側右岸の沖積地に立地しており、縄文土器が採取され縄文時代の散布地として登録されている。

調査は、調査対象地に２×10mの大きさのトレンチ（T）をまばらに13箇所配置し、近年の盛土が厚く堆積していたため重機を用いて少しずつ掘り下げを行った。掘り下げは黄褐色土に達するまでを目安とした。

遺構は検出されず、遺物は１Tで非ロクロ土師器甕２片・ロクロ土師器甕１片、２Tで非ロクロ土師器甕１片・昭和16年紀年銘白銅５銭貨１枚、３Tで非ロクロ土師器甕４片、７Tで鉄石英１片、10Tで非ロクロ土師器甕８片･高杯脚部１片、11Tで非ロクロ土師器甕１片が出土した。この他表面採集により、縄文時代後期の土器片１片、古墳時代の土師器高杯脚部２片・手捏ねの高杯１点を得た。高杯脚部３片のうち１片には朱彩が施されている。また内面調整が確認できることから土師器は南小泉式期に比定できる。

埋め戻しは重機で行った。

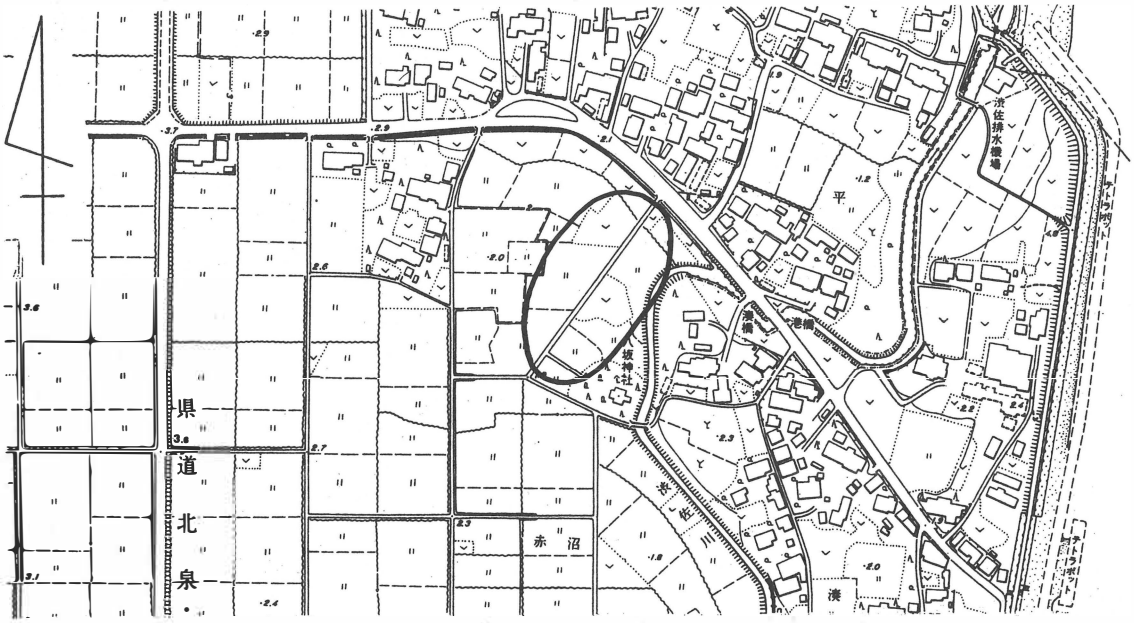


図８　下渋佐赤沼遺跡位置図

調査成果

遺構　検出されなかった。

遺物　縄文土器１片（後期）、土師器21片、石器１片、銭貨１枚

所　　見

遺構は検出されなかったが、開発に際しては慎重な工事を要する。

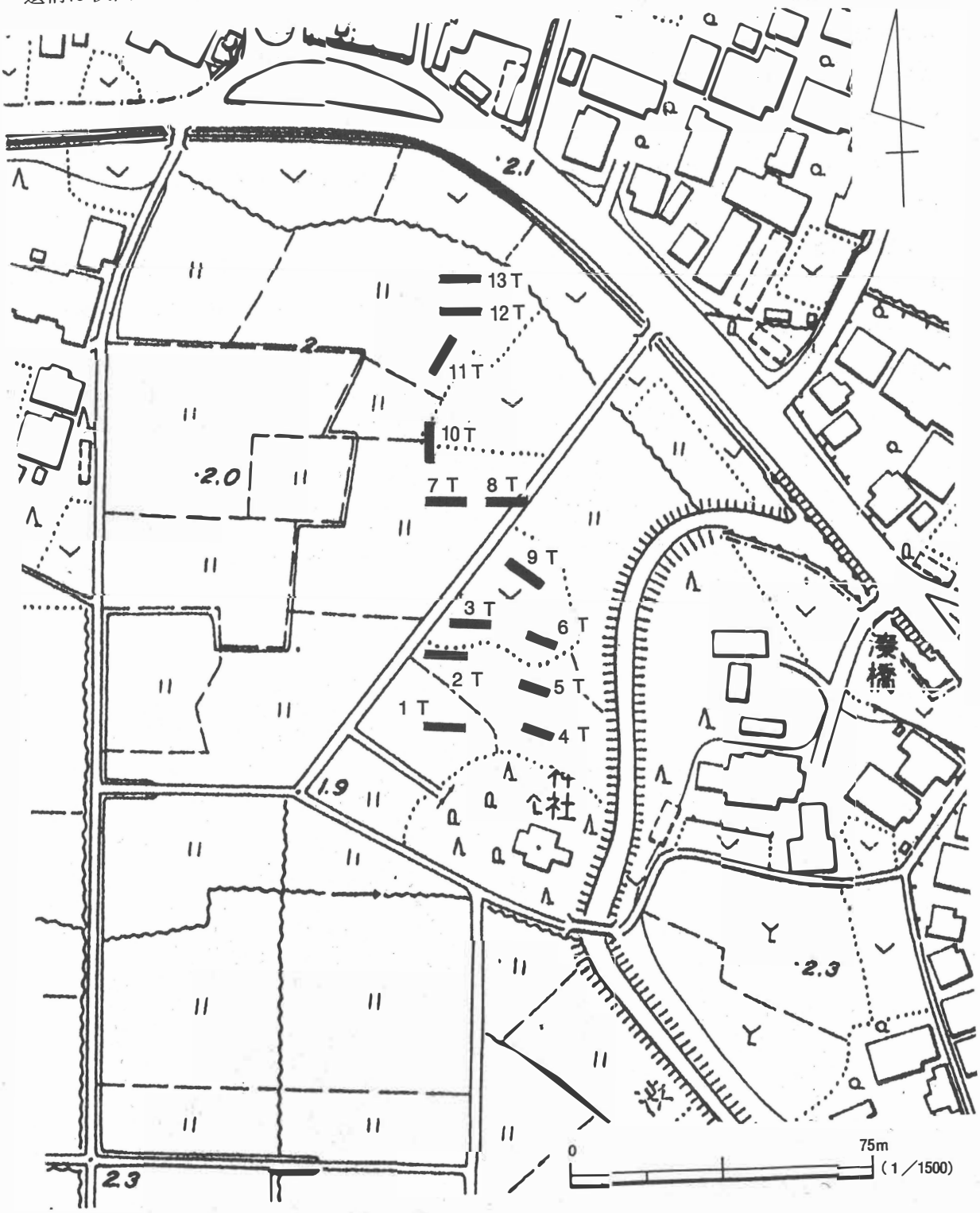


図９　下渋佐赤沼遺跡トレンチ配置図

第４節　上渋佐２・３・13号墳（遺跡番号20600044）

所 在 地　原町市上渋佐字原畑198外
調査期間　平成11年11月８日～11月30日
対象面積　3,612.56㎡
調査面積　200㎡
事業内容　桜井古墳周辺整備事業に伴う、保存整備の資料を得るための試掘調査
調査担当　鈴木文雄（発掘調査係主査）
遺跡概要

桜井古墳群は新田川下流南岸の河岸断丘に沿って形成された古墳群である。この古墳群は、国指定史跡桜井古墳を中心とした古墳群で、桜井古墳西側の小支谷を挟んで東側の上渋佐支群と西側の高見町支群の２つの支群によって構成されている。また、平成10年度と11年度の試掘調査によって、桜井古墳は主軸長約74m、高さ約６ｍを測る前方後方墳で、築造時期は４世紀中頃に築造されたと考えられている。平成11年度末までに、上渋佐支群では古墳時代前期から後期の古墳が13基、高見町支群では後期の古墳が25基確認されている。しかし、畑の開墾、宅地化などによって消滅した古墳も多く、かつては数十基からなる古墳群であったと考えられる。

桜井古墳群とほぼ重複して、桜井遺跡群が存在する。桜井遺跡群は福島県浜通り地方における弥生時代中期の標式遺跡で、桜井式土器や石庖丁を多量に出土する。近年の発掘調査から、この遺跡群が弥生時代中期から古墳時代前期の大集落であることが明らかになりつつある。

近世の遺跡では、野馬土手がある。江戸時代に相馬中村藩が行った馬の保護政策のために放牧した馬が増殖して、付近の田畑の農作物を食い荒らした。この被害を防ぐために、寛文６年（1666）に相馬忠胤によって高い土手と堀が築かれたのが野馬土手である。野馬土手は現在の原町市の市街地を中心に、東西約８㎞・南北約2.7㎞の広大な範囲を取り囲んでいる。

調査の目的

２・３・13号墳地区は平成９年度に試掘調査を実施しているが、当時はまだ民有地で植林された杉があったため、墓坑を完掘できなかった。また、３号墳と呼んでいた地面の高まりが本当に古墳かどうか確認できるまでに至っていなかった。今回、桜井古墳保存整備事業に伴うこの地域の公有化が完了したため、公園化に必要な木は残しつつ、墳丘部分の伐採を行って、墓坑の完掘と３号墳の性格解明を目的に調査を行った。以下、平成９年度と平成11年度の調査成果を合わせて報告する。

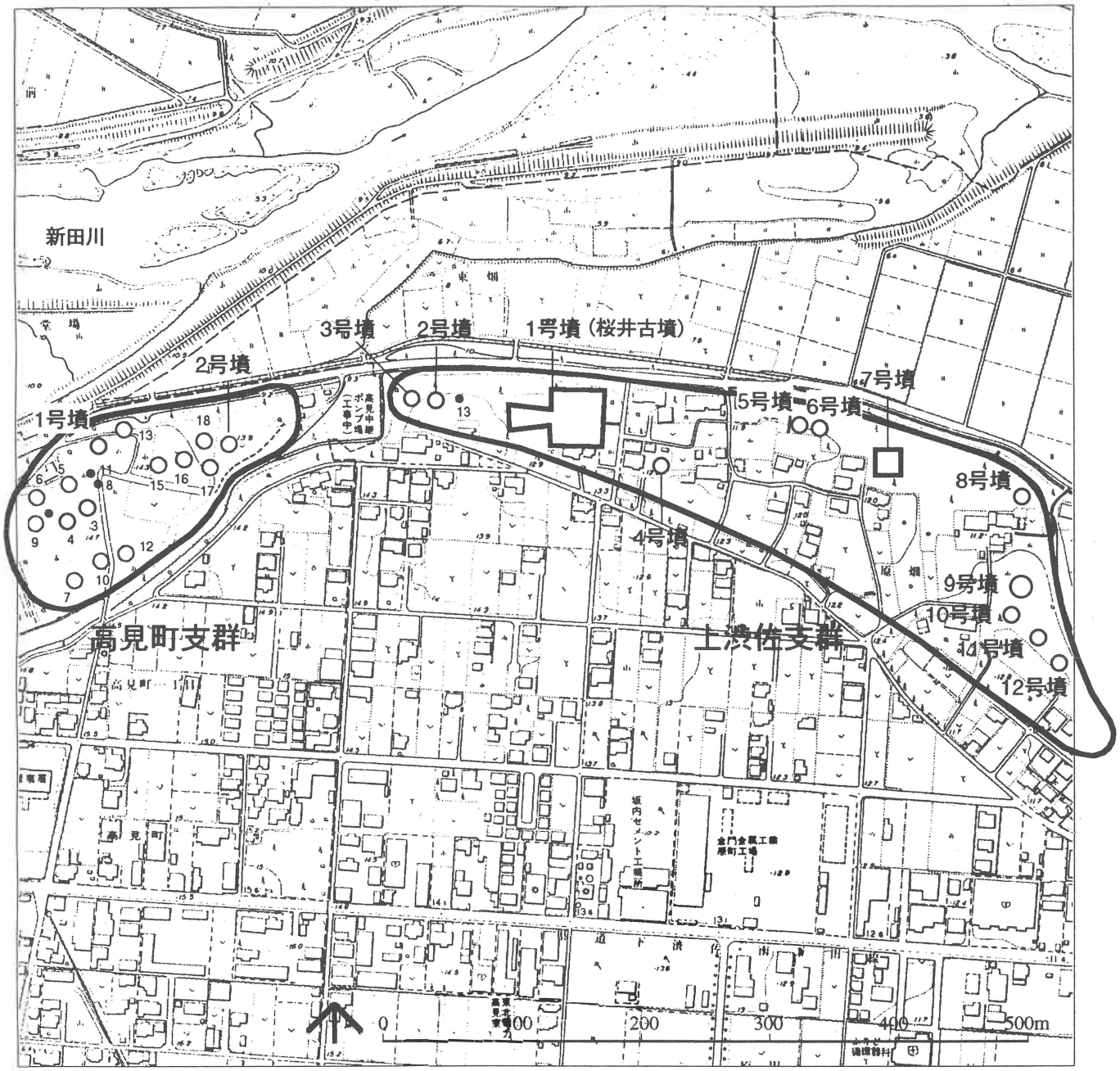


図10　桜井古墳群　古墳分布図

前方後方墳

方墳

円墳

墳丘外埋葬施設

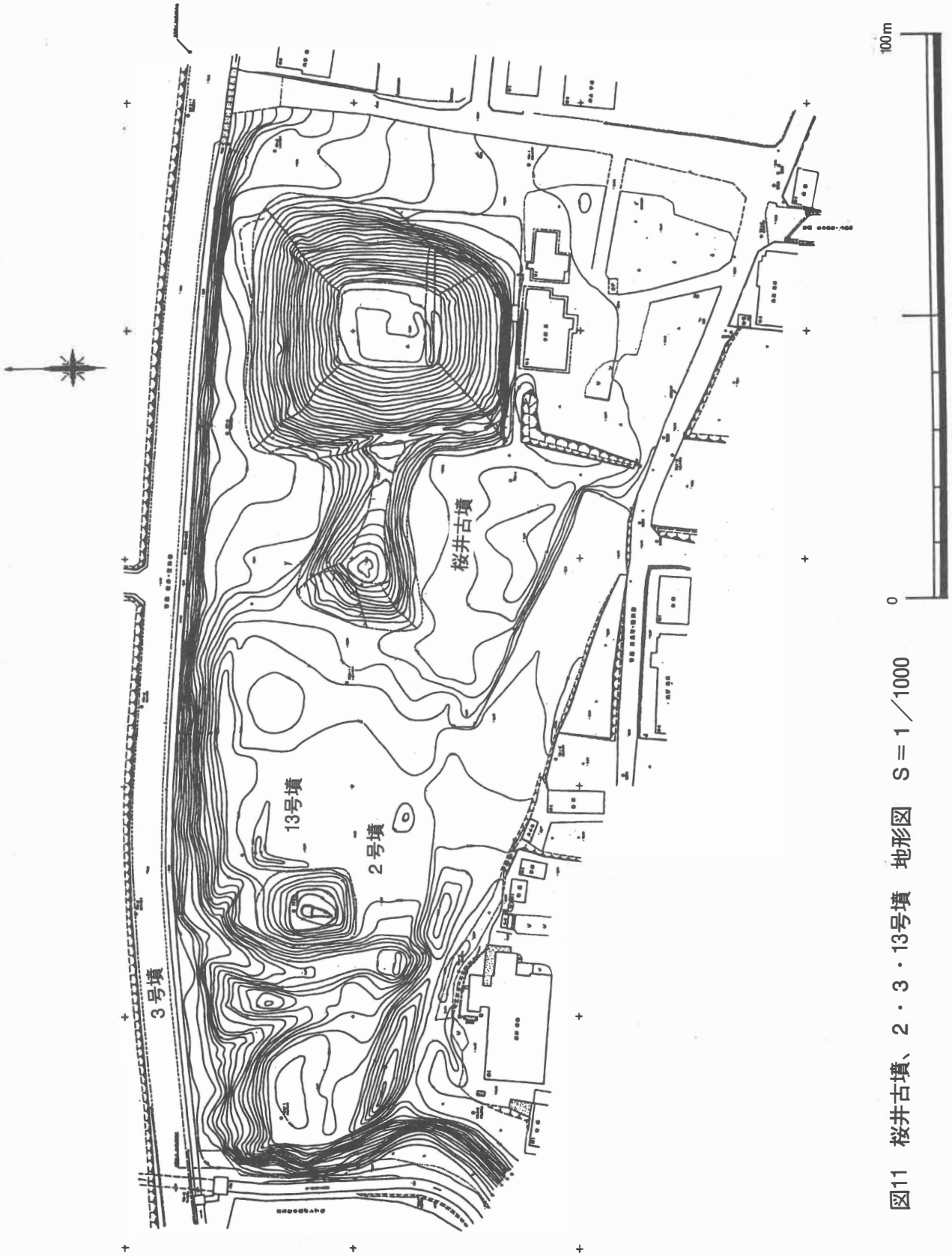


図11　桜井古墳、２・３・13号墳　地形図　S＝１／1000

２号墳

（遺構）

平成９年度の調査で、墳丘は直径20m、現地表面からの高さ1.5mの円墳で、周溝は上面幅３～４m・現地表面からの深さ１m・断面形は浅いすり鉢形で、墳丘の周囲を巡っていることを確認している。

埋葬施設は墳頂部直下の浅いところに掘り込まれているため、多数の狐の巣穴と大きな撹乱穴のため大規模な撹乱を受けて、ほとんど遺存していなかった。しかし、断片的ではあるが残された墳丘盛土から埋葬施設を確認することができた。

墓坑は現墳頂部から約30cm下の非常に浅い所で検出した。規模は東西4.2m・南北1.1m・深さ0.9mの方形である。

棺は割竹形木棺の身と蓋の間に目貼りしたと考えられる白色粘土テープが断片的ながらも残っていたことから、平面形は長方形、大きさは東西3.6m・南北0.8m・高さ0.8mであることを確認した。

（遺物・年代）

弥生土器と土師器の細片が出土しているが、古墳の築造時期決定の決め手となるような良好な遺物は出土していない。しかし、平成９年度に埋葬施設の撹乱部分から鉄剣の破片（長さ10cm）が出土していること、新田川流域の古墳では割竹形木棺の埋葬形態が６世紀代まで続くが、６世紀代の古墳の埋葬施設は墳丘築造前に墳丘基底面に掘りこまれるのに対し、それ以前の桜井古墳や上渋佐７号墳のような４世紀代の古墳は、埋葬施設が墳丘築造後に墳頂部直下に掘りこまれていることなどを考慮すると、２号墳の築造時期は５世紀代と推定される。

３号墳

（遺構）

地表面の観察からは、北側にマウンド状の高まりと、やや離れて南側にマウンド状の高まりが見られることから、円墳または主軸が南北方向の前方後円墳または前方後方墳のようにも見えた。

しかし、平成９年度の調査では南側の低い高まりは地山を削り出して地面の高まりを形作ってはいるものの、盛土はみられなかった。北側の高まりでは一部盛土が確認されていた。また、南北２つの地面の高まりの東西両側には溝を検出したが、これらの溝は東側では幅3.5m・深さ1.2m、西側では幅３m・深さ0.5mを測るが、西側の溝は南に行くと屈曲して南に抜け、地面の高まりの周囲を巡ってはいなかった。このため、３号墳と呼んでいた箇所は古墳と断定するにはいたらなかった。

今回の調査では、北側の高まりを全面表土除去し、次に低い盛土を除去して、盛土の状況、埋葬施設の有無の確認につとめた。その結果、基底面は不整形に地山を削り出し、凹凸の多い基底面の上に東西約4.5m・南北3.4m・高さ0.7mの楕円形の低い盛土をしていることを確認

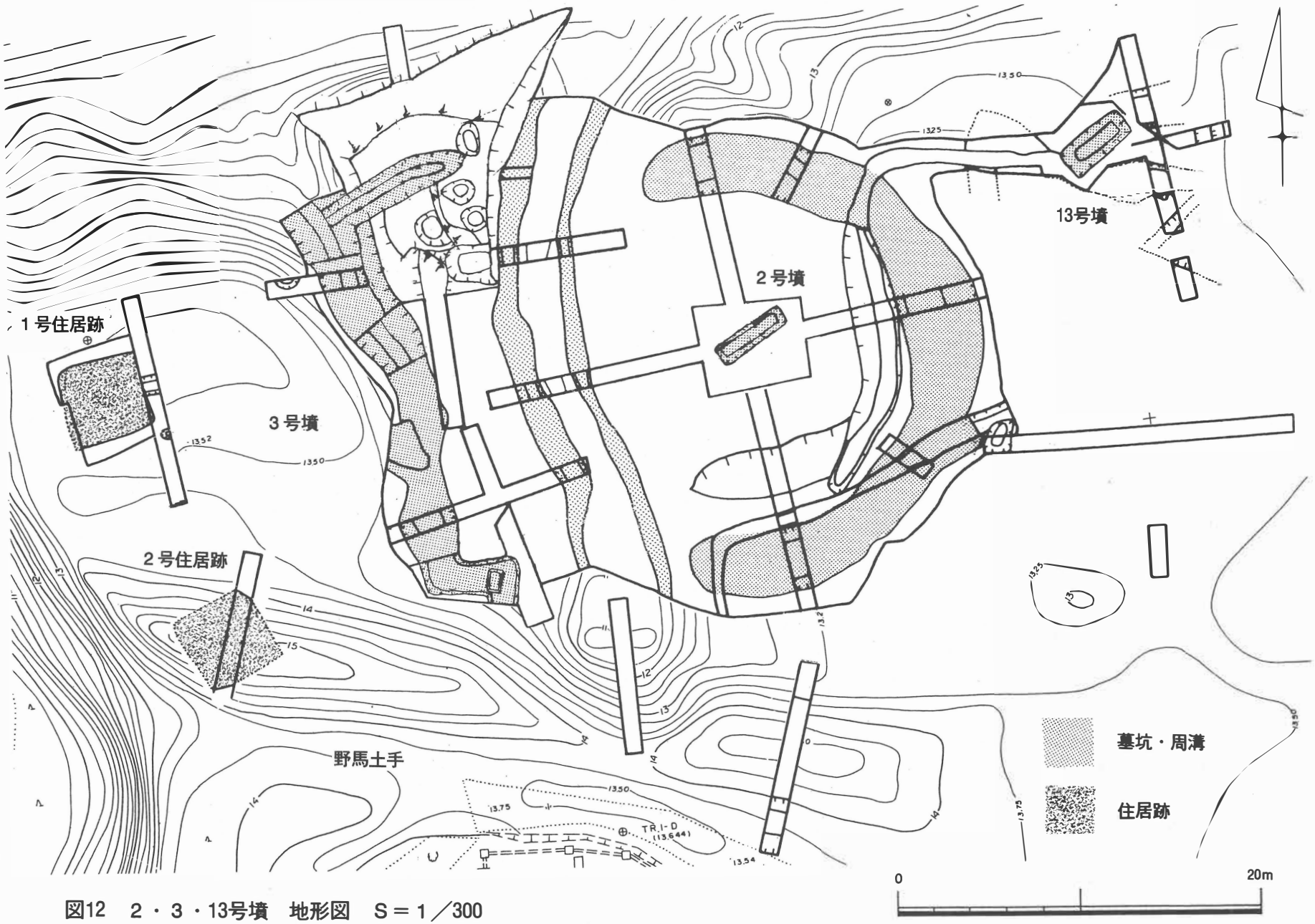


図12　２・３・13号墳　地形図　S＝１／300

した。しかし、盛土の状況・規模から古墳の墳丘とは考えられなかった。また、盛土中及び盛土の下にも埋葬施設や副葬品はなかった。
盛土の北側で幅0.9m・深さ0.4mの溝を検出したが、土橋でもなく途中で途切れており、墳丘を巡るように意識して掘り込まれたものではない。
（遺物・年代）
盛土に多量の弥生時代中期の土器・石器が混入していたが、土師器はほとんど出土しなかった。弥生時代中期の遺物包含層を掘った土を積み上げているため、盛土の築造時期は弥生時代中期以降である。また、３号墳の東西両側に掘られた溝は、南側で江戸時代の野馬土手の下になっているため、江戸時代以前である。
（所見）
以上のことから、これまで３墳と呼んでいた地面の高まりは、人工的な削り出しと盛土、溝などが確認されるものの、古墳ではないと判断した。

13号墳
（遺構）
平成９年度に検出した埋葬施設で、ここを中心に四方にトレンチを伸ばしたが、墳丘・周溝を持たない埋葬施設であることを確認している。墓坑は東西４m×南北1.7m・深さ1.3mの長方形プランで、断面形はきれいなコの字形である。
今回の調査により、棺は木棺の身と蓋を接合した部分に貼られた白色粘土テープから、平面形は長方形で、東西3.1m×南北0.7mであることを確認できた。白色粘土テープは高さ６㎝幅４㎝を測り、土層断面では割竹形木棺の身と蓋の接合面の側面に貼りつけたような状況で、棺の横断面の形は丸く棺底の横断面形もU字形である。棺の高さは0.6mと推定される。小口板の痕跡は確認できず、木棺の両端は刳り残されていたと考えられる。なお、棺縦断面の土層を見ると、棺底の東西両端が丸みを帯びて船底状に立ち上がることから、舟形木棺の可能性も考えられるが、白色粘土の分布を見ると平面形は長方形であり、割竹形木棺の可能性が強い。棺底のレベルは、東側が西側よりも８㎝程高く、東側が頭位と推定される。
（遺物・年代）
前回の調査では、遺物は埋土中に紛れ込んだ状態で土師器や弥生土器の細片が出土する程度であった。
今回の調査では、棺底の東端近くから刀子状の鉄製品が出土しており、東側が頭位とすれば、頭部付近に副葬されたものと考えられる。年代決定の決め手となる遺物に欠けるが、西隣の桜井古墳群高見町支群及び新田川対岸の丘陵上に位置する荷渡古墳群などの後期古墳の埋葬施設と同様に、基底面から掘りこまれた埋葬施設と刳抜式の木棺を白色粘土テープで目張りしていることなどから、築造時期は６世紀中葉から後半と推定される。

1　遺跡近景（南から）

2　遺構検出状況（南から）

3　掘上状況（北西から）

4　掘上状況（南から）

5　12号墳主体部（南から）

6　12号墳　轡出土状況（南から）

7　20号墳検出状況（西から）

8　20号墳掘上状況（南から）

高見町Ａ遺跡－２

1　37号住居跡（北から）

2　36号住居跡（東から）

3　35号住居跡（南から）

4　35号住居跡　遺物出土状況（西から）

5　35号住居跡　遺物出土状況（南西から）

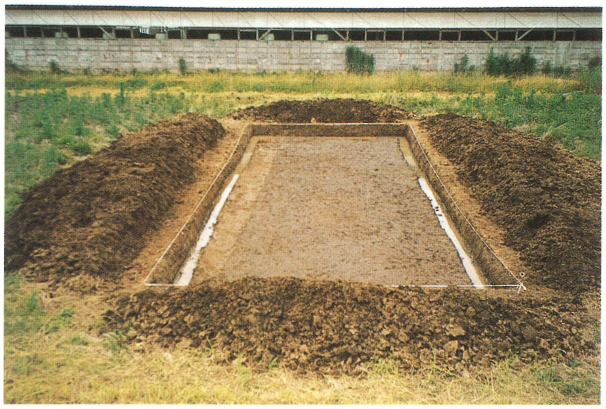
6　38号住居跡（南東から）

7　26号土坑（南西から）

8　38号住居跡　遺物出土状況

1　遺跡近景（北から）

2　1号トレンチ（南から）



3　2号トレンチ（北）

4　3号トレンチ（南から）

5　4号トレンチ（北から）

6　5号トレンチ（南から）

7　8号トレンチ（北から）

8　発掘状況（西から）

泉廃寺跡第13次調査－１

１　調査区全景（東から）

２　調査区全景（南から）

１　調査区近景（上が北）

下渋佐赤沼遺跡

1　遺跡近景（南西から）

2　遺跡近景（南から）

3　1号トレンチ（西から）

4　3号トレンチ（東から）

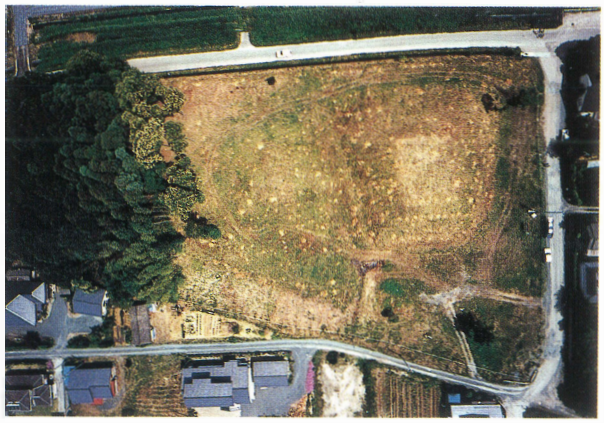
5　5号トレンチ（西から）

6　9号トレンチ（北から）

7　10号トレンチ（北から）

8　11号トレンチ（南から）

1　桜井古墳群上渋佐支群（南から）



2　桜井古墳(右)と２・３・13号墳(南上空から)

3　桜井古墳(左)と２・３・13号墳（北から）

4　２号墳　調査前（南から）

5　２号墳　墳頂部（南東から）

6　２号墳　埋葬施設（東から）
（多数の攪乱を受けている）

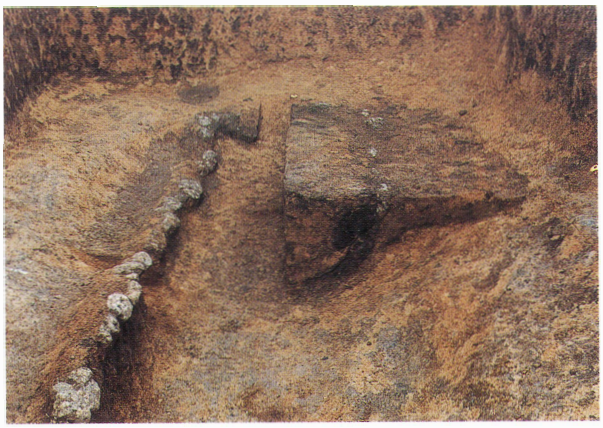
桜井古墳群　上渋佐２・３・13号墳－２

7　３号墳　調査前（南から）

8　３号墳　地山削り出し面（南から）

9　３号墳　北側溝（北から）

10　13号墳　埋葬施設（南西から）



11　13号墳　土層断面（南西から）

12　13号墳　刀子出土状況（南西から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	はらまちしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	原町市内遺跡発掘調査報告書５
副　書　名	平成11年度試掘調査 高見町Ａ遺跡（第６次調査）・泉廃寺跡（第12・13次調査）・ 下渋佐赤沼遺跡・桜井古墳群上渋佐２・３・13号墳（第２次調査）
シリーズ名	原町市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編 著 者 名	堀　耕平・鈴木文雄
編 集 機 関	福島県原町市教育委員会生涯学習部文化課
所　在　地	〒975-0012　福島県原町市三島町二丁目45番地　Tel　0244－24－5284
発行年月日	西暦2000年（平成12年）３月31日

所収遺跡	所　在　地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
高見町Ａ遺跡（第６次）	原町市高見町一丁目	07206 00215	37° 38′ 15″	141° 59′ 25″	19990421 ～ 19990708	342	個人宅地造成
泉廃寺跡（第12次）	原町市泉字町池	07206 00097	37° 38′ 50″	141° 00′ 40″	19990621 ～ 19990624	256	県営ほ場整備
泉廃寺跡（第13次）	原町市泉字寺家前	07206 00097	37° 39′ 50″	141° 00′ 50″	19990726 ～ 20000331	3,500	県営ほ場整備
下渋佐赤沼遺跡	原町市下渋佐字赤沼	07206 00214	37° 38′ 00″	141° 01′ 20″	19990701 ～ 19990707	240	県営ほ場整備
上渋佐２・３・13号墳	原町市上渋佐字原畑	07206 00044	37° 38′ 15″	140° 59′ 45″	19991108 ～ 19991130	200	遺跡保存整備

所収遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項
高見町Ａ遺跡	集落跡 古墳群	弥生･古墳	竪穴住居跡７軒、古墳３基	弥生土器・土師器・鉄製轡・両頭金具	桜井式土器標式遺跡
泉廃寺跡（第12次）	官衙跡	奈良・平安	なし	土師器	
泉廃寺跡（第13次）	官衙跡	奈良・平安	掘立柱建物跡８棟・一本柱列２列・溝跡１条・土坑10基・整地層	土師器・須恵器・赤焼土器・鉄滓	行方郡衙政庁院跡
下渋佐赤沼遺跡	散布地	縄文・古墳	なし	縄文土器・土師器	
上渋佐２・３・13号墳	集落跡 古墳群	弥生・古墳	円墳１基・墳丘外埋葬施設１基		桜井古墳群上渋佐支群

原町市埋蔵文化財調査報告書第22集
原町市内遺跡発掘調査報告書５

平成12年３月31日発行

発　行　福島県原町市教育委員会
〒975-0012　福島県原町市本町二丁目27番地

印　刷　株式会社　鹿　島　印　刷　所
〒979-2335　福島県相馬郡鹿島町鹿島字町159番地